

**第6回 第二種免許制度等の在り方に関する有識者会議  
議事概要**

**1 開催日時**

平成31年2月27日(水) 13:00~15:00

**2 開催場所**

三田共用会議所 第2特別会議室

**3 出席者**

**(1) 有識者委員**

大久保 堯夫	日本大学名誉教授
川端 由美	自動車ジャーナリスト
川本 哲郎	同志社大学法学部教授
瀬川 誠	株式会社山城自動車教習所交通教育センター長
高橋 信行	國學院大学法学部教授
中井 宏	大阪大学大学院人間科学研究科准教授
藤田 悟郎	科学警察研究所交通科学部付主任研究官

**(2) 警察庁**

北村 博文	交通局長
早川 智之	交通局運転免許課長

**(3) 関係省**

山腰 俊博	国土交通省自動車局安全政策課長
船岡 俊宏	国土交通省自動車局旅客課 (代理出席)

**4 議事概要**

**(1) 開会**

**(2) 議事**

**ア 事務局説明**

事務局から資料に基づき説明。

**イ 自由討議**

- 様々なデータや海外事例を収集したほか、交通事故被害者遺族の方々の御意見も伺うなど、多角的な検討を行ってきたことは評価できるのではないかと。
- 心理学上、心理的特性には性格的特徴だけではなく、動作の速さや正確さ等、幅広い要素が含まれることに留意するべきではないかと。
- 免許は個人に与えられるものなので、個人に焦点を当てた議論を中心にしてきたが、事業者の安全対策の検討も重要ではないかと。

**ウ 総括**

- 今後制度を見直すことがあれば、運用がうまくいくよう省庁間で連携してほしい。
- 教える側の教習指導員の能力も更に向上させていく必要があると感じた。
- 運転者の適性に今までよりも光を当てた議論ができたのはよかった。
- 安全面が重要であるのはもちろんのこと、今後、公共交通をどのように維持していくかという観点も重要である。
- 若年者に早期に第二種免許を取得させる場合、自分は特別なルートで同免許を取得したということが良いモチベーションとして働き得る。また、事業者もきちんと育て

なければならないという意識が働くのではないか。

- 3年待たなければ第二種免許の受験資格がないというのは、その間自然に任せているとも捉えられる。むしろ、集中的に充実した教育・訓練を行えば、有意義なものとなり、若くて優秀な運転者の育成につながると考える。
- 学際的な観点で、分野の壁を乗り越えて検討を行えたことは非常に良かった。

(以上)